



第17回 あの森を訪ねて

こども自然公園

第17回あの森を訪ねては、横浜市の「こども自然公園」とした。

相鉄線「二俣川駅」から歩いて行ける距離。

当地域は、「戸塚カントリー」「横浜カントリー」等とともに横浜市の中でも、一大緑地の一つである。

神奈川の実林50選地でもある。

コースは、二俣川駅～県営万騎が原団地（畠山重忠顕彰碑）～こども自然公園～三叉路（鎌倉街道などの）～鎌倉中の道～鶴ヶ峰駅。

およそ、6.5km～7km。

二俣川駅は、私が自動車教習所に通ったときは、様変わりして、近代的なビルとなった。

畠山重忠の顕彰碑をみる

駅前から自然公園通りを進み、右手に桜並木のある通りに入る。

県営万騎が原団地のはずれに、畠山重忠の顕彰碑がある。この辺りには、畠山重忠の碑が多い。

顕彰碑が2基、地蔵が1基。

小さな道標もある。道標は1792年製。右は大山道、左は戸塚道とある。



自然公園通りに出て、坂道を下れば「こども自然公園」。

駐車場のそばに、平成2年作成の「実林50選」の記念碑がある。

頭と根元が痛んでいるが、30年弱も良く残っている。

こども自然公園

昭和29年頃からの希望ヶ丘周辺住宅地や昭和33年から「万騎が原」の建設が行われた。

昭和43年に相鉄の寄付した23.6haに市が隣接地を買収して造られた、約47haの公園。

この公園の入口には大きな池がある。

むかし「本宿の大池」といわれ、徳川時代の中ごろ(1700年代)に「灌漑用水」として造られた。

大きさは現在の2倍の1.3haほどあったとのこと。

弁財天を祀ったところもある。

天明の大飢饉(1783～1788年)で亡くなった人を供養するためのもの。

長く古い歴史のある公園である。

この大池が、公園の中心で四方に伸びる4つ谷戸からなっている。

園内には、「こども自然公園」というだけのことはあり、大池、中池のほか、野球場、ホテル保全エリア、ピクニック広場、ドーナツ広場、とりでの森、バーベキュー場や梅林、桜山などもある。



そのほか、小さな動物と遊べる「万騎が原ちびっこ動物園」が野毛山動物園の分園としてある。



園内の森林

4つの谷筋から尾根には、開園から50年の月日が経ち故郷の樹木がのびのびと葉を伸ばしている。

クヌギやコナラのほか、ケヤキ、クスノキ、ヒノキ、スギ、サクラ、マツ、マテバシイなど様々。

大池のほとりを通り、小池を見ながら教育水田に沿って進む。

秋の水田が懐かしい。この谷一帯は、ゲンジボタルの生息地として、平成4年に横浜市指定天然記念物指定されている。

湧水、クヌギ・コナラの2次林、



下流の水田、そして尾根まで続く文化財保護地域の森林、と最適の環境とのこと。

小高い丘を登ると「ピクニック広場」。小学校の子どもたちが、お昼の弁当を食べている。まさに、「こども自然公園」という光景である。元気の子供たちの声があふれている。

武相境道

ピクニック広場の片隅に「武相境道」の標。武蔵国都筑郡と相模国鎌倉郡との境の道。

要するに相模と武蔵の境の道。

江戸時代までは、北は旭区と瀬谷区の境を通り、南には旧東海道の「境木地蔵尊」を通り、金沢まで続いていた。



梅林を通り、ちびっこ動物園で小さな動物とたわむれる子供たちをみる。周りはクヌギやコナラの林が広がり、なんとも言えないいい気分である。



もう一つの沢を上り、「とりでの森」に行ってみる。大きな施設が尾根の上まで続いている。

尾根に出て、下のキャンプ場まで下る。今は桜の季節ではないので、なんともつまらんが、花見時には大勢の人達で賑わう。その時もう一度、訪れたいものだ。



鎌倉街道

バーベキュー場を出た所に「鎌倉道と大山道の分れ道」という新しい道標がある。「この道を東に行けば、今井街道をへて保土ヶ谷へ、南に行けば戸塚カントリーを抜けて鎌倉へ行くことができる。西に向えば大山の阿夫利神社に通じる道でした」とある。



鎌倉街道は、「上の道」「中の道」「下の道」のルートがあり、この場所は「中の道」にあたる。

幅が2m程の道で、北に、鶴ヶ峰駅方面から中山、川和、江田へ。南には戸塚カントリーを通り、嶺下橋から「下永谷市民の森」を抜け、日限山地蔵を通り、颯川の新橋に至り鎌倉に達する。

上の道は、府中から瀬谷、東俣野を通り藤沢に至る。鎌倉幕府を倒す時に、新田勢が攻め上った道である。

今は、住宅地や団地ができて道が不明になっている所もあるが、それでも、それなりに歩ける道でもある。

鎌倉道は当時と少し違いがあるかもしれないが、南本宿橋で保土ヶ谷パイパスを越え、新幹線を第2二俣川橋梁で渡り、畠山重忠と終焉の地である、鶴ヶ峰駅方面まで、歩いてみよう。

畠山重忠と万騎が原一带

鶴ヶ峰や二俣川周辺は、畠山重忠の歴史が今も健在である。

畠山は鎌倉時代の武士。義経との「一の谷」に参戦するなど、頼朝の信頼も厚く、鎌倉幕府の創建に尽くした。

頼朝の死後、北条時政に暗殺された。元久2年(1205年)に「鎌倉に異変あり」の報を受け、134名の郎党と共に、埼玉県比企郡の館を出て、鶴ヶ峰の麓まで来て、謀叛人の立場に立たされたことを知った。鎌倉からの寄せ手と万騎が原一带で戦となり、敵の矢を受けて42歳の生涯を閉じた。

明治に入ると、仁・義・忠・考の志としての理想的な重忠像が定着していく。これらの活動が地域での顕彰活動に発展していき、先に見た明治25年の「畠山重忠遺烈碑」が建てられたのもこの時。

鶴ヶ峰の駅付近に、首塚、駕籠塚、薬王寺の六つ塚などがある。

戦後は、昭和30年に畠山重忠没後750年を記念して「畠山重忠公碑」が建てられた。

畠山家の「五三の桐」を用いた模様が、小学校や中学校の校章になっている学校もある。



鶴ヶ峰駅に出ないで、公園からすぐに帰路につくときは、万騎が原小学校のそばを通り、少し行くと相鉄いずみ野線の「南万騎が原駅」となる。